

セーフコミュニティかめおか 防災対策委員会



発表日
発表者

2023年7月21日(金)

防災対策委員会 委員長 宮川 正志

発表内容

1

・ 防災対策委員会設置の背景

2

・ 委員会の構成

3

・ 防災対策に関する課題整理

4

・ 課題解決のための方向性と対策

5

- ・ 委員会で取り組むプログラム
 - ・ A コロナ禍の地域訓練継続支援プログラム
 - ・ B 屋外大規模イベント型防災訓練プログラム
 - ・ C 大人・こども防災士養成プログラム

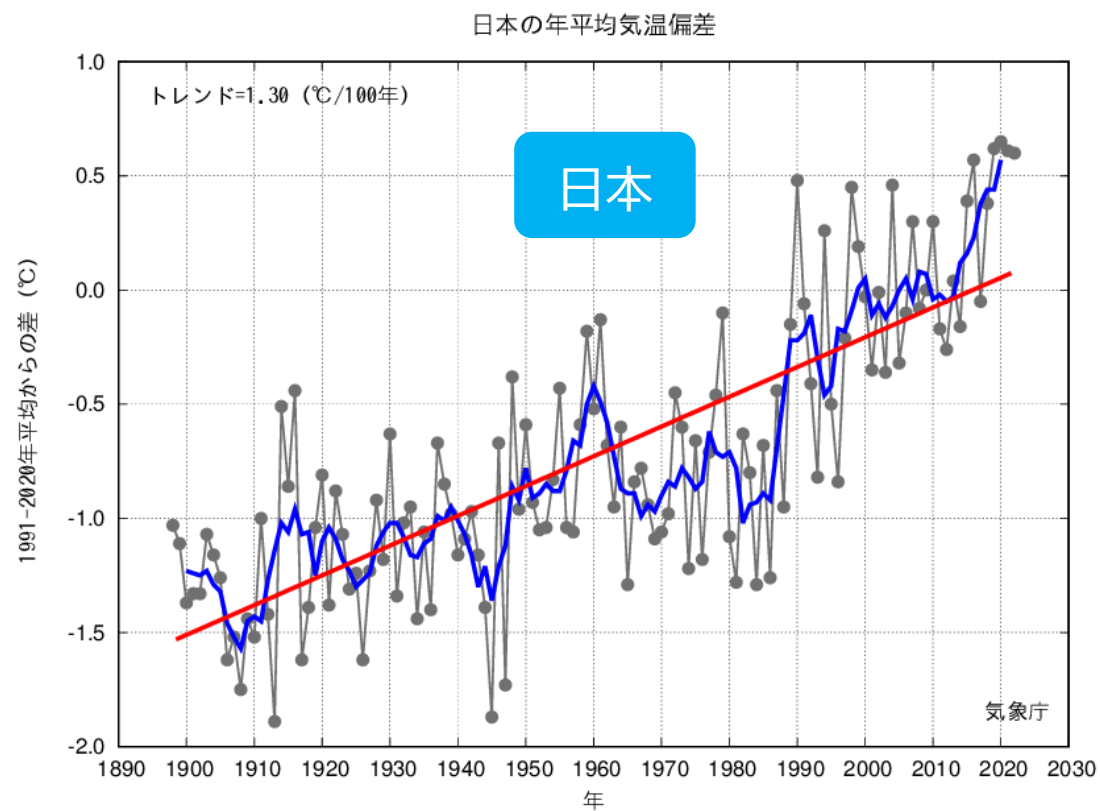
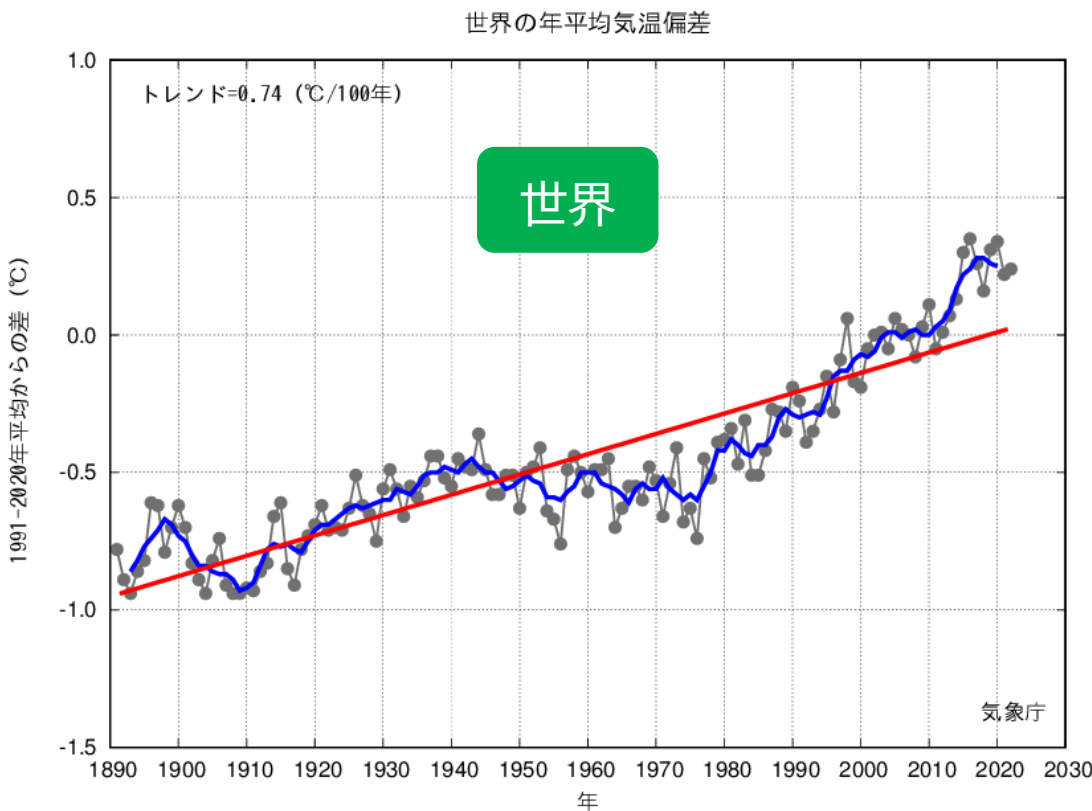
6

・ 活動実績と今後の計画

①地球は温暖化傾向にある

年平均気温	100年あたりの増加割合
世界	0.74℃
日本	1.30℃

【図①】世界・日本の年平均気温偏差



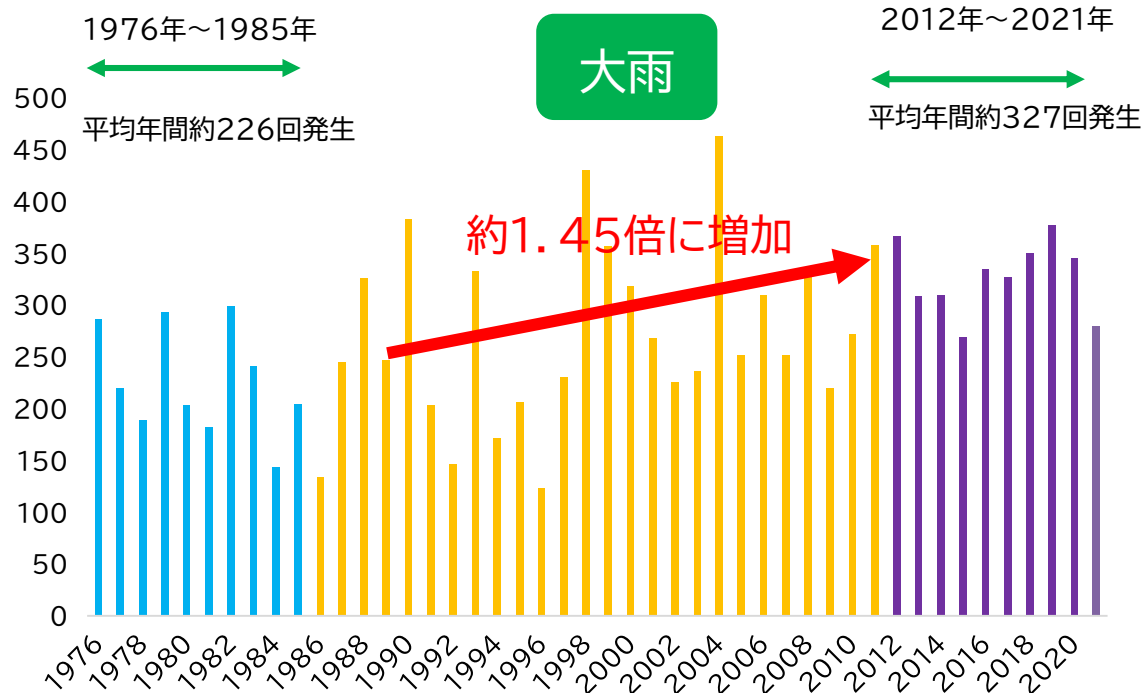
【出典】：気象庁【世界・日本の年平均偏差の経年変化】

②大雨の回数や土砂災害発生件数は増加傾向にある

大雨	1976年～1985年	2012年～2021年	増加割合
年間平均発生回数	約226回	約327回	約1.45倍

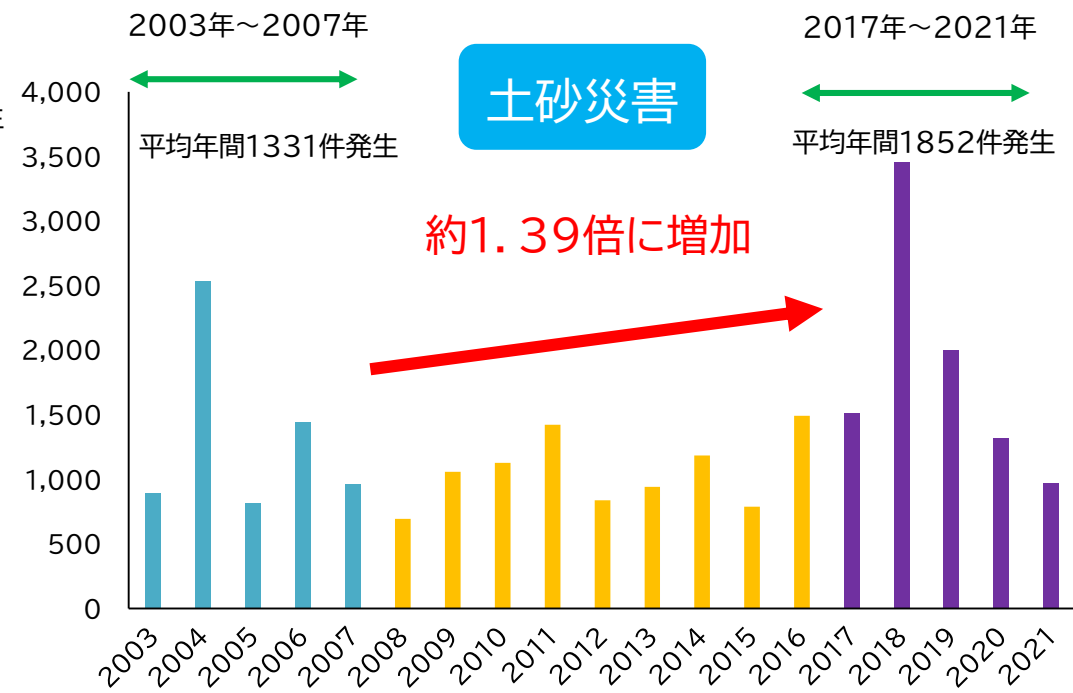
土砂災害	2003年～2007年	2017年～2021年	増加割合
年間発生件数	1,331件	1,852件	約1.39倍

【図②】全国の大雨の年間発生回数



【出典】：気象庁「全国(アメダス)の1時間降水量50mm以上の年間発生回数」

【図③】全国の土砂災害年間発生件数



【出典】：国土交通省「過去の都道府県別土砂災害発生件数(平成15年以降)」

③市内において災害による被害が多数発生している

発生年	被災者合計
2013年	378世帯 972名
2018年	429世帯1,078名

【表①】災害による市内の住宅等の被害状況

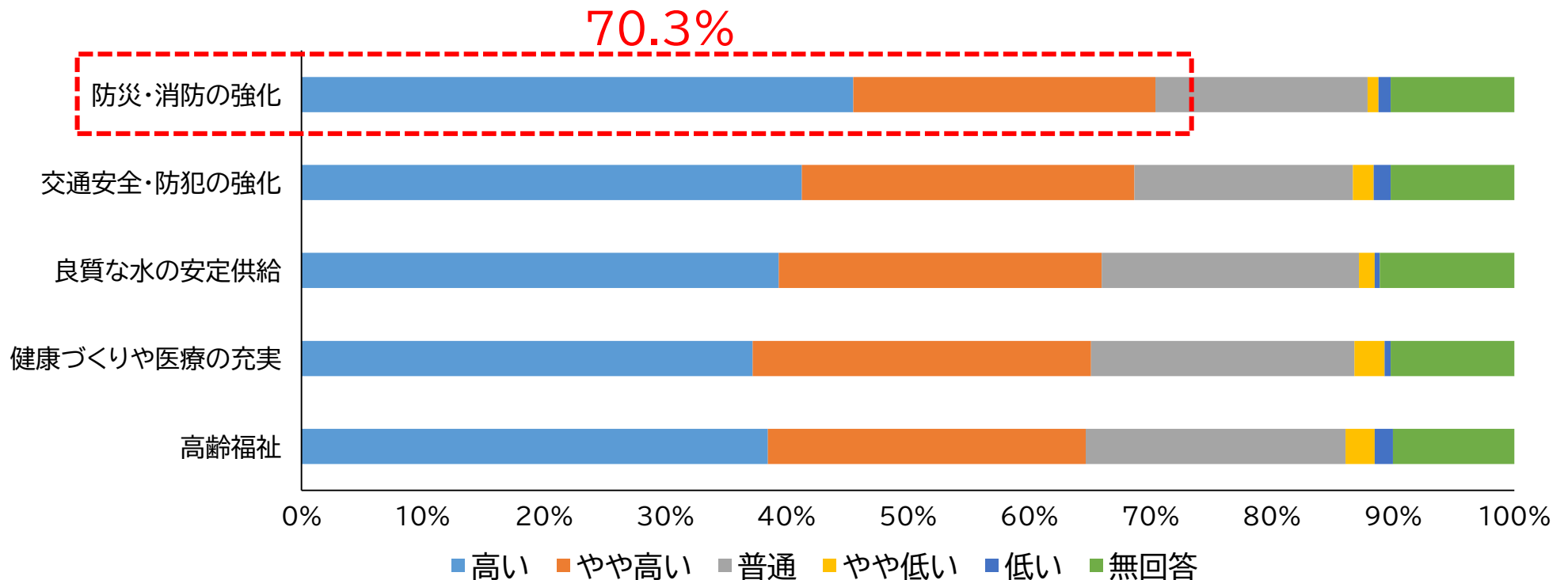
発生年	災害名	住宅損壊被害	住宅浸水被害	被災者合計
2013年	台風第18号	8世帯23名	370世帯949名	378世帯972名
年間合計				378世帯972名

発生年	災害名	住宅損壊被害	住宅浸水被害	被災者合計
2018年	大阪府北部地震	31世帯69名	-	31世帯69名
	7月豪雨	9世帯16名	47世帯129名	56世帯145名
	台風第20号	2世帯2名	52世帯120名	54世帯122名
	台風第21号	230世帯590名	1世帯2名	231世帯592名
	9月7日の大雨	14世帯40名	43世帯110名	57世帯150名
年間合計				429世帯1,078名

④防災対策は重要であると考えてる市民が多い

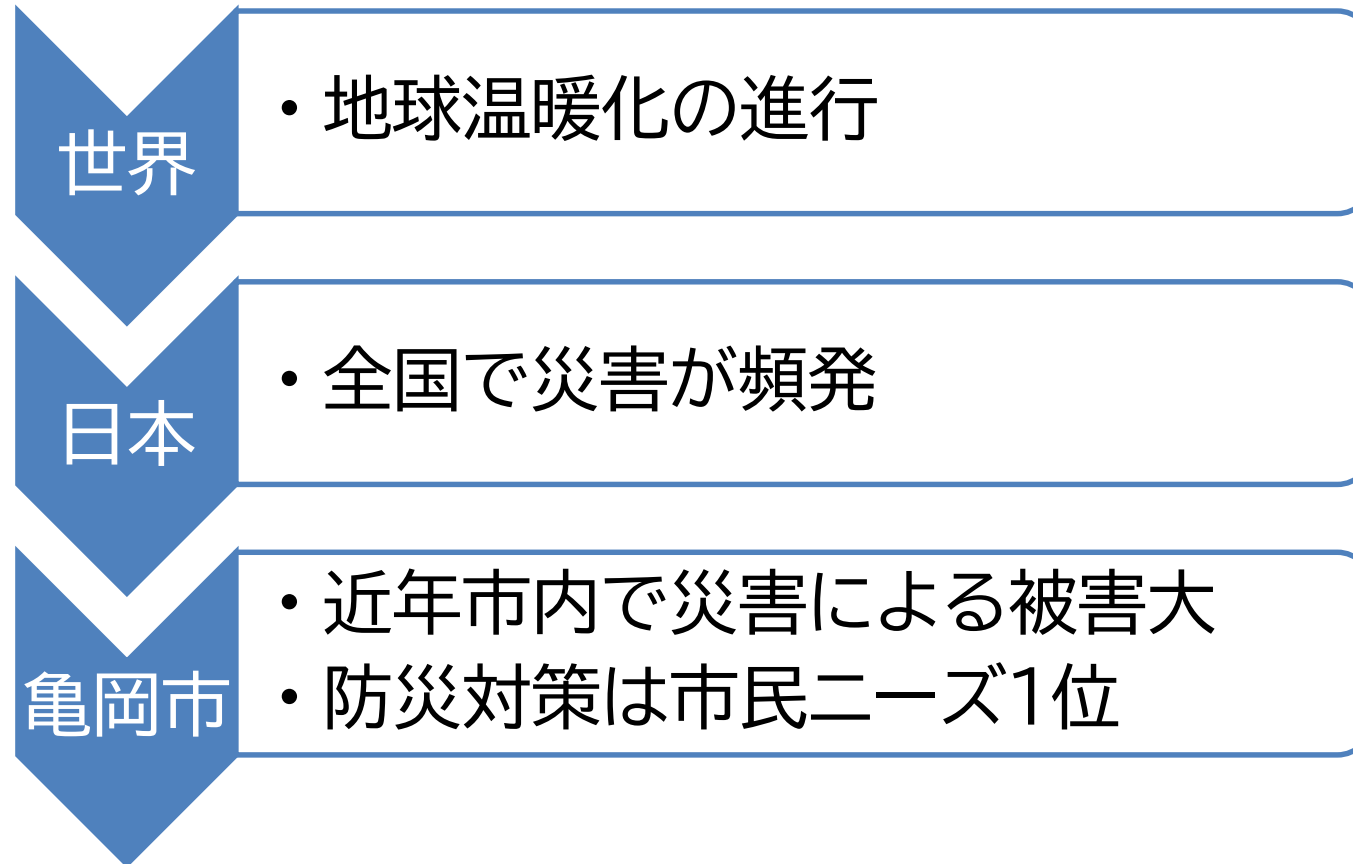
設問	割合	全11回答項目中の順位
防災・消防の強化	70.3%	第1位

【図④】市民が考えるまちづくりに対する重要度の割合(上位5項目)



【出典】:第5次総合計画策定に係る亀岡市まちづくりアンケート(令和元年7月実施)

防災対策委員会設置の背景(まとめ)



防災対策はセーフコミュニティの重要課題のうちの1つ



2021年4月 防災対策委員会設置

発表内容

1

・ 防災対策委員会設置の背景

2

・ **委員会の構成**

3

・ 防災対策に関する課題整理

4

・ 課題解決のための方向性と対策

5

- ・ 委員会で取り組むプログラム
 - ・ A コロナ禍の地域訓練継続支援プログラム
 - ・ B 屋外大規模イベント型防災訓練プログラム
 - ・ C 大人・こども防災士養成プログラム

6

・ 活動実績と今後の計画

防災対策委員会の構成状況

区分		所属団体	役職
市民団体等	1	亀岡市自治会連合会	
	2	亀岡市内自主防災会	委員長
	3	亀岡市消防団	副委員長
	4	亀岡市消防団	
	5	亀岡市社会福祉協議会	
	6	亀岡市民生委員児童委員協議会	
	7	NPO法人亀岡子育てネットワーク	
	8	亀岡国際交流協会	
行政機関等	9	京都府南丹広域振興局 総務防災課	
	10	亀岡消防署予防課	
	11	亀岡警察署警備課	
	12	亀岡市立中学校長会	
	13	亀岡市立小学校長会	
	14	亀岡市自治防災課	事務局

市民と行政がより
一体となって防災対
策に取り組む！

構成	人数
市民団体等	8名
行政機関等	6名
合計	14名



防災対策委員会(2023年6月)

発表内容

1

・ 防災対策委員会設置の背景

2

・ 委員会の構成

3

・ **防災対策に関する課題整理**

4

・ 課題解決のための方向性と対策

5

- ・ 委員会で取り組むプログラム
 - ・ A コロナ禍の地域訓練継続支援プログラム
 - ・ B 屋外大規模イベント型防災訓練プログラム
 - ・ C 大人・こども防災士養成プログラム

6

・ 活動実績と今後の計画

ヒアリングによる課題抽出

実施時期	実施者	対象
2021年5月	防災対策委員会事務局	防災対策委員会構成団体

訓練

- 地域の防災訓練などに対する市民参加率の不足
- 防災訓練などに参加する市民層の偏り

知識

- 防災専門の人材が自治会や自主防災会などで不足
- 児童、生徒など、次世代防災リーダーへの訓練や防災啓発の機会不足

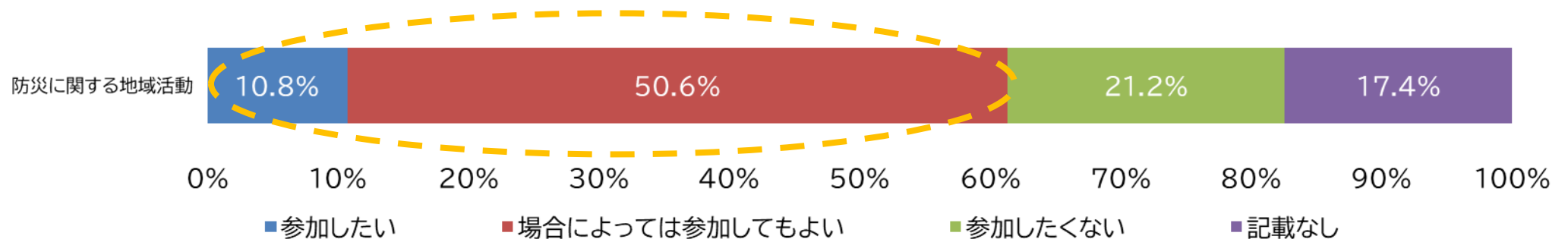
その他

- コロナ禍での防災訓練や防災イベントの実施制限

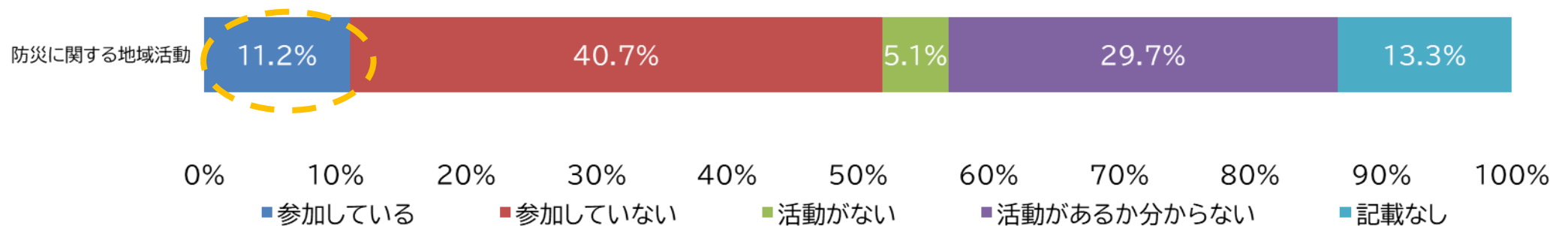
課題の裏付けデータ調査① 参加者の偏り

設問	割合
地域の防災訓練への参加意欲のある市民割合	61.4%
地域の防災訓練などへの市民参加率	11.2%

【図⑤】今後実施される地域での災害対策(防災訓練など)に対する市民の参加意欲



【図⑥】現在実施されている地域での災害対策(防災訓練など)への市民の参加割合



課題の裏付けデータ調査② 防災専門人材不足

市内在住防災士数の不足

防災士とは？

防災に関する十分な意識と一定の知識・技能を修得したことを、日本防災士機構が認証した人

防災士資格取得までの流れ

①防災士研修の受講(2日間)

②防災士資格試験の合格

③普通救命講習の受講

【表②】防災士認証登録者数(2020年9月末時点)

都道府県・市町村名	防災士登録者数	人口10万人当たり防災士数	全国順位
愛媛県	14,878名	1,111名	1位
京都府	1,428名	55名	47位
全国平均	—	157名	—
亀岡市	56名	65名	—

【出典】:認定特定非営利活動法人 日本防災士機構

発表内容

1

・ 防災対策委員会設置の背景

2

・ 委員会の構成

3

・ 防災対策に関する課題整理

4

・ **課題解決のための方向性と対策**

5

- ・ 委員会で取り組むプログラム
 - ・ A コロナ禍の地域訓練継続支援プログラム
 - ・ B 屋外大規模イベント型防災訓練プログラム
 - ・ C 大人・こども防災士養成プログラム

6

・ 活動実績と今後の計画

課題解決のための方向性と対策

課題

- コロナ禍において地域住民参加型訓練の実施困難



方向性

- コロナ禍でも地域での防災訓練を維持、継続実施



対策

- A コロナ禍の地域訓練継続支援プログラム

課題

- 防災訓練などに参加する市民層の偏り



方向性

- コロナ禍でも防災訓練参加者の裾野を拡大



対策

- B 屋外大規模イベント型防災訓練プログラム

課題

- 防災専門人材や次世代防災リーダー育成機会不足



方向性

- 防災スキルを持った防災リーダーの養成



対策

- C 大人・こども防災士養成プログラム

発表内容

1

・ 防災対策委員会設置の背景

2

・ 委員会の構成

3

・ 防災対策に関する課題整理

4

・ 課題解決のための方向性と対策

5

・ **委員会で取り組むプログラム**

・ **A コロナ禍の地域訓練継続支援プログラム**

・ B 屋外大規模イベント型防災訓練プログラム

・ C 大人・こども防災士養成プログラム

6

・ 活動実績と今後の計画

実施の背景

従来

- ・本市は自治会単位で自主防災会が23組織存在(組織率100%)
- ・地域の特徴に応じた訓練を地域主体で実施してきた

コロナ禍での課題

従来型の地域住民参加型訓練
の実施が困難

セーフコミュニティの視点

コロナ禍でも防災訓練を維持・
継続できるよう支援・指導する

地域の特徴に応じた訓練をコロナ禍でも継続的に実施する

プログラムの概要(2021年・2022年実施)

課 題	コロナ禍において地域住民参加型の訓練を実施することが困難	
目 標	コロナ禍における防災訓練の維持・継続	
内 容 等	【内容】	地域の特性を活かした防災訓練に対し、市が支援・指導
	【対象】	市内自治会・自主防災会、各種団体等が開催する防災訓練
短期目標	地域主体の防災訓練実施回数の維持 (年間7回)	【目標設定基準】 市内23自主防災会の 1/3
長期目標	市内全域で地域主体の防災訓練を実施 (年間23回)	【目標設定基準】 市内23自主防災会で 各1回

活動事例(その1)【馬路町防災訓練】

実施日

- ・ 2022年6月26日(日)

参加者

- ・ 自治会、自主防災会役員、民生委員など約30名

訓練内容

- ・ コロナ禍での地震及び大雨を想定した避難所開設訓練

工夫点

- ・ 訓練参加者を「避難者役」「避難所運営役」「備蓄物資取扱役」に分け、3密を回避
- ・ 地域からの要望により、日本防災士会の防災士が訓練時の助言を実施



防災士による講演



備蓄物資取扱訓練

活動事例(その2)【東つつじヶ丘防災訓練】

実施日

- ・ 2022年11月20日(日)

参加者

- ・ 自治会、自主防災会役員、消防団員など約30名

訓練内容

- ・ コロナ禍での感染症予防や要配慮者の避難想定訓練

工夫点

- ・ 女性消防分団に訓練参加を呼びかけ、女性の視点に配慮した訓練を実施
- ・ 地域からの要望により、車いす利用者や乳幼児連れの親子など、多様な避難者を想定した訓練を実施



感染症対策資機材取扱訓練



避難所開設訓練

活動実績と今後の課題

コロナ禍で従来型の地域住民参加型訓練が実施困難となったが、地域の特徴に応じた訓練をコロナ禍でも継続的に実施することができた

短期目標

地域主体の防災訓練実施回数

年間7回

活動実績

2021年
8回実施
約220名参加

2022年
8回実施
約300名参加

今後の課題

新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類に移行したことにより、防災訓練実施地域を徐々に拡大していく

発表内容

1

・ 防災対策委員会設置の背景

2

・ 委員会の構成

3

・ 防災対策に関する課題整理

4

・ 課題解決のための方向性と対策

5

・ **委員会で取り組むプログラム**

- ・ A コロナ禍の地域訓練継続支援プログラム
- ・ **B 屋外大規模イベント型防災訓練プログラム**
- ・ C 大人・こども防災士養成プログラム

6

・ 活動実績と今後の計画

課題解決のための方向性と対策

課題

- コロナ禍において地域住民参加型訓練の実施困難



方向性

- コロナ禍でも地域での防災訓練を維持、継続実施



対策

- A コロナ禍の地域訓練継続支援プログラム

課題

- 防災訓練などに参加する市民層の偏り



方向性

- コロナ禍でも防災訓練参加者の裾野を拡大



対策

- B 屋外大規模イベント型防災訓練プログラム

課題

- 防災専門人材や次世代防災リーダー育成機会不足



方向性

- 防災スキルを持った防災リーダーの養成



対策

- C 大人・こども防災士養成プログラム

実施の背景

従来

- ・本市では隔年で防災講演会や市主催の総合防災訓練を実施
- ・参加者の多くが40代～60代の男性
- ・学生・子育て世代などの若者や女性・外国人の参加者は少ない

コロナ禍での課題

従来型の大規模な防災訓練や講演会が実施困難

セーフコミュニティの視点

コロナ禍でも子育て世代や学生、女性、外国人など、幅広い市民の防災訓練参加を促す

コロナ禍でも若者や女性・外国人など、幅広い世代が参加しやすい防災訓練を実施する

プログラムの概要(2021年実施)

課 題	防災訓練に参加する市民に偏りがある	
目 標	コロナ禍でも子育て世代や学生、女性、外国人など、幅広い市民に防災訓練に参加してもらう	
内 容 等	【内容】	<ul style="list-style-type: none"> ・屋外大空間での開催【3密の防止】 ・体験ブースの設置【子育て世代参加者の獲得】 ・外国人向け防災研修の実施【外国人参加者の獲得】 ・イベントチラシの作成【幅広い市民へ周知】
	【対象】	子育て世代や学生、女性、外国人など、幅広い市民
短期目標	コロナ禍でも訓練に参加したことのない市民の参加者の増加 (訓練参加者500名)	【目標設定基準】 2019年総合防災訓練での訓練参加者数 (2,000名)の1/4
長期目標	幅広い市民に防災訓練に参加してもらい、訓練参加者をコロナ禍以前の水準に戻す (訓練参加者2,000名)	【目標設定基準】 2019年総合防災訓練での訓練参加者数 (2,000名)

亀岡市防災フェスタ2021

実施日

- ・ 2021年10月16日(土)

会場

- ・ サンガスタジアムby KYOCERA及びかめきたサンガ広場

参加者

- ・ 約700人

イベント内容

- ・ 防災講演会
- ・ 避難訓練コンサート
- ・ 大規模災害想定避難訓練
- ・ 高層建物火災想定訓練
- ・ 外国人向け防災研修会
- ・ 防災体験、展示ブース



活動事例(その1)

防災講演会

- ・ 講師:防災企業連合関西そなえ隊 前川 良栄 様
- ・ テーマ:いのちを守るために～知ること、考えることからはじめませんか?～

避難訓練コンサート

- ・ 演奏協力:亀岡中学校吹奏楽部

大規模災害想定避難訓練

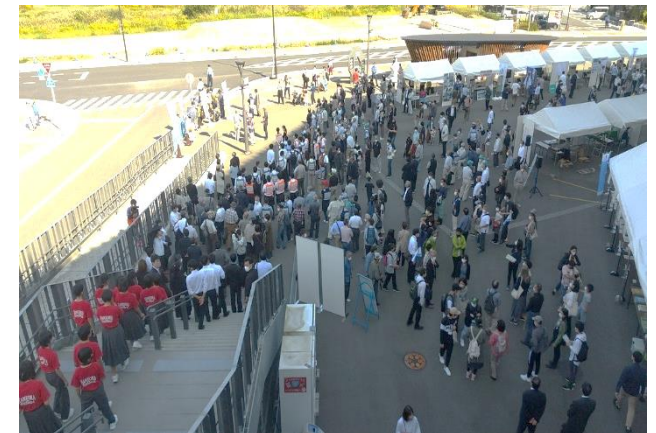
- ・ 線状降水帯による大雨の中、市内を震源とする震度7の地震発生を想定した避難訓練



防災講演会



避難訓練コンサート



大規模災害想定避難訓練

活動事例(その2)

集団避難訓練

- ・ スタジアムやJR亀岡駅に隣接する指定緊急避難場所への避難誘導

集団救急訓練

- ・ 亀岡消防署による負傷者のトリアージ等の実施

要救助者救出訓練

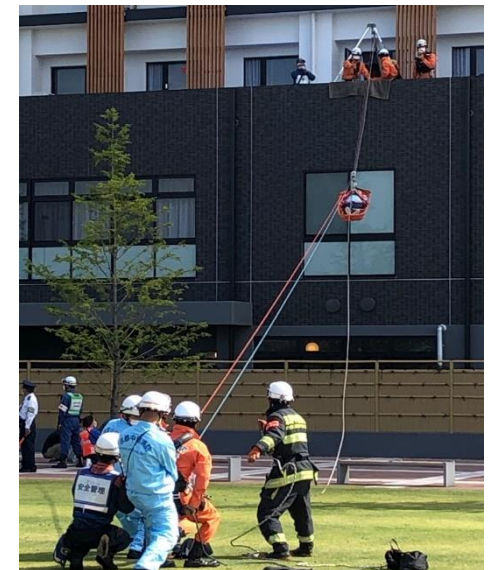
- ・ スタジアムに隣接するホテルから要救助者を救出



集団避難訓練



集団救急訓練



要救助者救出訓練

活動事例(その3)【外国人住民向け防災研修】

参加者 合計12名

- ・ 中国人 4名
- ・ アメリカ人 2名
- ・ ベトナム人 5名
- ・ 日本人(付き添い) 1名

研修内容

- ・ ハザードマップの確認方法
- ・ 避難所の受付体験 など



外国人住民向け防災研修

やさしいにほんご

がいこくじんじゅうみん
外国人住民のための
ぼうさいけんしゅう
防災研修

いつ: 2021/10/16(土曜日)09:00-12:00 (受付 08:30 から)
どこで: サンガスタジアム by KYOCERA 会議室A など (亀岡市追分町)

参加無料 亀岡市防災フェスタ2021の中で開催します

①防災講座: 災害について 学びます
避難情報が 出たときに 何をしますか?
災害の 情報を どこで 見つけますか?
避難するときに 何を 持って 行きますか? など

②避難訓練: 安全に 逃げる 練習をします
地震のとき 建物から 外に 逃げる 訓練をします。
避難所の 受付を 体験します。

③体験・展示コーナー
非常食、消火体験などの コーナーを 見ます。

●対象: だれが 参加できますか
外国人住民、外国に つながりのある人、その家族、支援者など
定員30人程度 (申し込みを してください。申し込みが 多い
ときは 抽選をします。)

●言語
やさしいにほんごで 話します。
英語、中国語、ベトナム語の
通訳あり

●申し込み・問い合わせ
参加したい 人は メール、FAXで 10月8日(木曜日)までに 申し込みを
してください。申し込みのときに 次の ことを 書いてください。
- 名前、姓、住所、所属、連絡先 (電話、メール)
- 言語 (やさしいにほんご、英語、中国語、ベトナム語、その他)
- 主催者の名はその旨をご連絡ください。
●申し込みの 締切りは 10月11日 (月曜日) までに 亀岡市文化振興課から
知らせます。
●新型コロナウイルス感染症の 状況により 内容が 変わることが あります。
新しい 情報は ホームページを 見てください。(English・やさしいにほんご)

亀岡市文化振興課
TEL 0771-55-9855(月-金8:30-17:15) FAX 0771-22-6372
メール bunka-kyokusa@city.kameoka.lg.jp
かめおか多文化共生センター (おレリアかめおか3階)
TEL 0771-56-8160(10:00-18:00) FAX 0771-56-8165
メール kameokatabunka@gmail.com

主催: 亀岡市 協力: 京都府国際センター/亀岡国際交流協会

活動事例(その4)【防災体験・展示ブース】

出展団体 25団体

- ・ 災害時に活動する自衛隊や消防車などの展示
- ・ 災害協定締結企業などによる展示

内容

- ・ こども連れの家族に喜ばれ、幅広い市民の防災イベント参加につながった



自衛隊や消防車などの展示



災害協定締結企業などによる展示

活動実績と今後の課題

コロナ禍で従来型の大規模な防災訓練が実施困難となったが、親子連れや外国人、学生など、新たな層が参加する訓練を実施することができた

短期目標

防災イベントへの
参加者

500名

活動実績

2021年
1回実施
約700名参加

外国人参加者
11名

今後の課題

新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類に移行したことにより、訓練参加者を積極的に集めていく

発表内容

1

- ・ 防災対策委員会設置の背景

2

- ・ 委員会の構成

3

- ・ 防災対策に関する課題整理

4

- ・ 課題解決のための方向性と対策

5

- ・ **委員会で取り組むプログラム**
 - ・ A コロナ禍の地域訓練継続支援プログラム
 - ・ B 屋外大規模イベント型防災訓練プログラム
 - ・ **C 大人・こども防災士養成プログラム**

6

- ・ 活動実績と今後の計画

課題解決のための方向性と対策

課題

- コロナ禍において地域住民参加型訓練の実施困難



方向性

- コロナ禍でも地域での防災訓練を維持、継続実施



対策

- A コロナ禍の地域訓練継続支援プログラム

課題

- 防災訓練などに参加する市民層の偏り



方向性

- コロナ禍でも防災訓練参加者の裾野を拡大



対策

- B 屋外大規模イベント型防災訓練プログラム

課題

- 防災専門人材や次世代防災リーダー育成機会不足



方向性

- 防災スキルを持った防災リーダーの養成



対策

- C 大人・こども防災士養成プログラム

実施の背景

従来

- ・自治会や自主防災会などの防災専門人材の養成は、地域の自主性に任せていた
- ・児童や生徒など若年層に対する防災啓発は、学校や家庭任せだった

地域の課題

京都府における人口10万人当たりの防災士数が全国最下位

セーフコミュニティの視点

自主防災会組織や消防団、学校などと協力し、大人やこどもの防災専門人材の養成が必要

- 防災スキルを持った市民防災リーダーを養成するため、防災士資格取得者を増加させる事業を実施する
- 児童や生徒など、次代の地域防災を担う若年層の防災意識向上を目指す事業を実施する

プログラムの概要(2022年実施)

課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会や自主防災会などで、防災専門人材不足である ・若年層に対する防災訓練や啓発の機会不足である 	
目 標	市独自で防災リーダー養成事業を実施し、防災スキルを持った市民防災リーダーを増やす	
内 容 等	【内容】	<ul style="list-style-type: none"> ①市主催の防災士養成講座の実施 ②児童・生徒などが対象の防災イベントの実施
	【対象】	<ul style="list-style-type: none"> ①自主防災会役員、要配慮者利用施設職員 ②市内在住の小中学生や保護者
短期目標	<ul style="list-style-type: none"> ①市内在住防災士数増加(年間50名) ②こども対象の防災イベントへの参加者増加(年間10名) 	【目標設定基準】 2020年9月末時点での 亀岡市の防災士資格取得者数(56名)
長期目標	<ul style="list-style-type: none"> ①市内在住防災士数(年間50名)の維持 ②こども対象の防災イベントへの参加者増加(年間20名) 	【目標設定基準】 2020年9月末時点での 亀岡市の防災士資格取得者数(56名)

活動事例(その1)【亀岡市防災士養成事業】

実施日

- ・ 2022年10月8日(土)、9日(日)

参加者 52名

- ・ 市内自主防災会からの推薦者
- ・ 災害時要配慮者利用施設からの推薦者など



演習課題



普通救命講習

亀岡市防災士養成講座の特徴	従来	対策	結果
会場面	府内に防災士養成講座の受験会場がない (近隣では大阪市内まで通う必要あり)	市が府内自治体初となる研修実施機関の認証を取得	養成講座を市内で開催可能とした
費用面	資格取得には高額な費用負担が発生 (約6万円が必要)	市が養成講座を自主開催し、受講料を負担	受講者の費用負担を約1.2万円に抑えた

活動事例(その2)【亀岡市こども防災士養成事業】

実施日

- ・ 2022年11月26日(土)

参加者

- ・ 市内小学4年生～6年生の児童と保護者 9組22名

訓練内容

- ・ AEDなど防災資機材取扱訓練
- ・ 防災食試食体験
- ・ 体験型オンライン防災授業



防災資機材取扱体験



防災食試食体験



こども防災士認定証交付式

活動実績と今後の課題

大人防災士養成事業

短期目標

- ・ 市内在住防災士数
- ・ 年間50名増加

活動実績

- ・ 2022年 1回実施
- ・ 52名受講

今後の課題

- ・ 講座受講者数の継続的な確保

こども防災士養成事業

短期目標

- ・ こども対象防災イベント参加者10名

活動実績

- ・ 2022年 1回実施
- ・ 親子9組22名参加

今後の課題

- ・ 小中学校への事業周知徹底

亀岡市の防災士数	実数	10万人当たり	(全国平均)
前:2020年	56名	65名	(157名)
後:2023年	123名	143名	(198名)

発表内容

1

・ 防災対策委員会設置の背景

2

・ 委員会の構成

3

・ 防災対策に関する課題整理

4

・ 課題解決のための方向性と対策

5

- ・ 委員会で取り組むプログラム
 - ・ A コロナ禍の地域訓練継続支援プログラム
 - ・ B 屋外大規模イベント型防災訓練プログラム
 - ・ C 大人・こども防災士養成プログラム

6

・ 活動実績と今後の計画

活動実績と今後の計画(まとめ)

プログラム名	活動実績		活動計画(予定)			今後の計画
	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	
A コロナ禍の地域訓練継続支援プログラム	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類に移行したことにより、防災訓練実施地域を徐々に拡大
	8回実施 約220名参加	8回実施 約300名参加	実施	実施	実施	
B 屋外大規模イベント型防災訓練プログラム	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	子育て世代や外国人など、幅広い世代が参加できる防災イベントを隔年で実施
	1回実施 約700名参加			実施		
C 大人・こども防災士養成プログラム	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	防災士資格を特例取得可能な消防団員への協力依頼 ↓ 防災士資格取得者数の確保
		1回実施 52名受講	実施	実施	実施	
	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	市内小中学校への事業周知徹底 ↓ こども対象の防災イベントへの参加者の拡大
		1回実施 親子9組 22名参加	実施	実施	実施	

今後は、ロジックモデルの採用により各プログラムを効率的に推進する

2023年の計画(予定)

プログラム名	従来 of 課題	活動計画(予定)	活動目標
A コロナ禍の地域訓練 継続支援プログラム	コロナ禍において地域住民参加型の訓練を実施することが困難	新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類に移行したことにより、9月に開催される京都府総合防災訓練に合わせ、市内全域で積極的に地域拠点訓練を実施	2023年 23回実施
B 防災に関する市民意識調査プログラム 【新規】	従来から防災に関する各種事業を実施してきたが、防災に特化した市民意識調査は未実施	国内認証取得にあたり、市民の広い層に訓練に参加してもらうなどの防災行動を取ってもらうための基礎データを取得する	2023年 1回実施
C 大人・こども防災士養成プログラム	【防災士養成事業】 自治会や自主防災会などで、防災専門人材が不足	11月に市独自で防災士養成事業を実施し、防災スキルを持った市民防災リーダーを増やす	2023年 1回実施
	【こども防災士養成事業】 若年層に対する防災訓練や啓発の機会が不足	11月に市独自で若年層対象の防災イベントを実施し、若年層の防災意識向上を図る	2023年 1回実施

今後の方向性

深める

亀岡市の防災活動の 特色

- ・ 自主防災会・消防団を核とした地域主体の取り組みの継続・発展

広げる

「選ばれるまち」を目指したチャレンジ

- ・ 女性や子どもたちをはじめ、幅広い年齢層の市民が参加しやすい防災イベントの開催

高める

より多くの市民が主体的に、一人ひとりが「自分ごと」として取り組むことができる防災・減災に向けた活動を提案したい

ご清聴ありがとうございました。



セーフコミュニティかめおか 防災対策委員会